

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.637-638

夏休みに多くの体験イベントを実施しました

【定例活動報告】

8月は暑さのため通常の活動が難しい中、夏休みならではの特別なイベントが満載でした。8月3日には小手澤の森で植生調査を行い、自然の多様性を再確認しました。続く8月16日と17日に開催した体験学校では、初日に底沢での沢登りを楽しみ、カエルや沢蟹、小魚を捕まえて観察することもできました。2日目には竹を切り出して流しそうめんを行いました。特に沢での活動は、酷暑を忘れさせる爽やかさがありました。しかし、竹の切り出し作業は非常に暑い気温の下で行われ、熱中症のリスクが伴いました。活動内容や場所を工夫し、無事に終えることができましたが、私自身が熱中症になりかけたことは反省点です。今後は無理をせず、適切な休憩を心がけ

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



たいと思います。8月21日には相模原市の緑区誕生15周年記念イベントとして、再び底沢で沢登り体験を実施し、多くの方に自然の魅力を体感していただきました。小原の郷のエリアの魅力を伝えることができましたと思います。

9月もまだ暑さが続いており、その影響か参加者が少なくなっています。少人数の時には、チルホールの取り扱いやロープワークの練習を行っています。ロープワークでは、基本のもやい結びを使って物を固定したり、バタフライノットでロープの中間に輪を作ったり、引き解け結びやて結びでテンションをかけたままロープを仮固定をする技術を学んでいます。これらは知識を深める良い機会です。これからも安全第一で活動が続けて参りますので、皆様のご参加をお待ちしております。

湯元 啓之（本会、理事）

【定例活動報告】 知足の森

8月第1日曜日の活動は、人数が多かったので三チームに分かれて活動しました。午前中は、東屋へ行き、倉庫付近で植生調査を行いました。3m×3mの四方内で色々なことを調べました。一つ目は、20mの高さ、10mの高さ、身長の2倍の高さ、おへその高さにおいて植物がどのくらいの面積を占めているかです。二つ目は、生えている植物の名前です。これに関しては、わかる範囲で調べ、わからなかったものは写真をとっておきました。三つ目は、生えている植物の被度と群度です。被度とは、上から見たときにその植物がどのくらいの面積をしめているかを表す値です。群度とは、その植物がどのくらい群れているかを表す値です。調べた感想は、植物の種類が思っていたよりもとても多くて、驚きました。また、被度を考えるのが難しかったです。午後は長福寺のほうへ移動して、倉庫付近の整備をしました。それから、高校生と合流し、高校生がやっている研究についての話を聞きました。「間伐しているのに下草がなかなか生えないのはシカなどの動物が食べてしまうからなのではないか」という仮説を検証するために研究していることを知りとても興味深く思いました。

小林 健晟（GTE LAB 中学3年男子）

今日は、森の中に生えている植物の種類、群度、被度を調べる植物調査をしました。森の手前（出入口に近いところ）で調査したのですが、3m四方の中でも植物の種類が意外と多くてその中でも名前のわからない植物がたくさんありました。先輩方が進んで調査をしている姿を見て、カッコいいなと思いました。午後はお寺に行って草むしりをしました。その後に森の中で高校生の方々が行っている調査について話を聞きました。この話は私たちが研究するときのためになるものばかりでした。

志村 紬（GTE LAB 中学1年女子）

第3日曜日は緑のダム体験学校を実施し、募集した小学生たちとともに流しそうめんをしました。午前中に東屋の近くで流しそうめんに使うための竹を取りました。私が作業した班は竹を切り倒そうとしましたが竹がしなれていたので切っている途中でミシミシという根元を切っただけなのに五つぐらいに分かれてしまいました。このことから竹選びはとても大切だということに気が付くことができました。その後に切った竹でお皿（めんつゆを入れる容器）を作ったりお箸を作ったりしました。竹が固く切りづらかったです。お寺に戻った後に流しそうめんの台をセットし、みんなで流しそうめんを楽しみました。自分たちで頑張って作った流しそうめんは楽しく、美味しかったです。また、竹を切ったりする経験や自分たちで竹で器を作りその器で食べる経験はなかなかできないと思うので今日経験できて良かったです。

大隅 英（GTE LAB 中学1年女子）



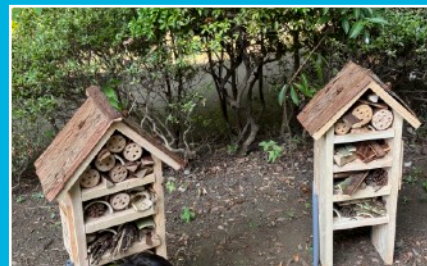
今日は流しそうめん大会に参加しました。まず、そうめんを流す竹を切りに行きました。とても暑い気温の中、班のみんなで協力して長い竹を切りました。切った後は、竹を縦に割る作業をしました。センスが問われる作業で、なたを使ったり工夫して、みんなで頑張りました。その後、各自で竹でお箸を作ったりお椀を作りました。細かい作業だったので集中して行いました。ようやく流しそうめんを始めました。自分たちで作った竹のレーンやお箸で食べるそうめんはとても美味しかったです。そして、デザートで果汁グミやハリボーを流して食べました。キャッチするのは大変だったけれど、思い出になりました。今日は初めてする体験が多く、難しいこともあったけれど、とても学びになり楽しかったです。来年も参加したいと思いました。

宮田 怜奈 (GTE LAB 中学2年女子)

【活動報告】 小金井市緑公民館 インセクトホテルを作ろう、実施しました

今回は小学生の皆さんと緑公民館でインセクトホテルを作りました。私が感じたあまり良くなかった点は、ぶつつけ本番の部分が多かった事です。詳しく言うと、小学生の二つのグループに対して、誰がどちらに行くか決めていなかったことや、司会の初めの言葉は考えていたが、終わりの言葉を誰にするか等、決めていなくて、ぶつつけ本番になってしまったからです。また、当日の午前中に、前もってやる事、例えば看板制作などをしていた事です。その二つから、私は次からはぶつつけ本番や、午前中にやるようなことがなくなるように、できる範囲でラボに行って話し合いなどを進めていきたいと思いました。今回良かった所は、ぶつつけ本番になってしまった所を皆でリカバリーできたところや、結局は小学生を楽しめられたし、良かったと思います。私は、もともと小学生低学年等が苦手だったのですが、いつもよりもパフォーマンスを発揮できたと思います。次回もあれば参加したいです。

梶原 陽樹 (GTE LAB 中学1年男子)



【活動報告】 鎌倉Mujiでのイベントに参加しました



今回は、NPO法人游風さんがMujiCOMホテルメトロポリタン鎌倉1階スペースで行われた「木にふえれて！あそんで！まなぼう！」からお声がけいただき、物販及びレーザー彫刻機の体験活動を行いました。レーザー彫刻機の体験ではお客様にiPadを用いて図柄や文字を入力していただき、私たちが用意した板に彫刻する形式と、お客様ご自身がお持ち込みした板材に彫刻する形式の二つで行いました。レーザー体験は特段問題はなく、比較的スムーズに行うことができました。また、お客様からは好意的なご感想を多くいただき、非常に手応えのある体験活動となりました。このようなレーザー彫刻機を用いた体験型のイベントは今後も継続して実施していきたいと十分に言えるような結果を得ることができました。

一方で、物販の方では小枝のキーホルダー以外は売れず、ティッシュボックスに関しては販売個数0個という誠に悲しい結果となってしまいました。要因としましては、当日の主な客層が主に考えられます。今後は、お客様のニーズに合わせた商品展開や販売方法の工夫も必要だと感じています。

小幡 紀人 (GTE LAB 中学2年男子)

【活動報告】小菅村での森林体験（通称、合宿）を行いました

小菅村で楽しみにしていたのは、生物観察と源流体験である。生物観察においては、去年ほどたくさんの生物がいたわけではなかったが、マコモタケの整備でタイコウチを観察することができた。水生昆虫は動物園でしか見たことがなかったので新鮮で貴重な体験だった。また、バスから生きている鹿の小さな群れを見たり、源流体験でイワナを見たりすることもできた。イワナはとても綺麗だった。

源流体験は、今までに行ったことのない新たなルートに挑戦でき、見慣れない景色を見ながらの沢登りは冒険感があった。また、崖から落ちたとされる子シカの白骨死体がショッキングだが興味深かった。見覚えのある肋骨を目にし、本当にジビエを食べていたんだと実感出来た。さらに、自分の15～20倍はあろうかという砂防ダムの滝で滝行をした。端の方は勢いが強くてたどり着くことはできず、水の力強さを感じた。滝の裏にガイドの人も由来を知らない穴があった。入ってみると暗く這ってようやく入れるぐらいの狭さで、多少の好奇心はあれど、それよりも恐怖を感じた。一体なんだったのだろうか。ついでに、周りの人に水をかけたのが楽しかった。

金子 愛斗（東京都立国立高校2年男子）

私がこの合宿で心に残ったことは、マコモ畑での体験です。最初の鎌を使って刈り取る体験は、まず鎌を使うことが初めてだったので最初はなかなか慣れませんでした。ですが刈り取るうちに手首のスナップを利かせたり、草の一つに集めたりすると刈り取りやすいことに気づけました。少し腕が筋肉痛になりましたが、結構慣れることができました。次に、鋤を使って沼に入って雑草を取る体験をしました。私は沼に入ることも自体も初めてでした。なので沼に入ると少しの時間でも、足がどんどん体重のせいで沼に嵌ってってしまうことに驚きました。そのためつま先立ちにしたり、足を左右に動かしたり、鋤を使って体重を分散させたりなど、沼からの抜け出し方を実践しながら学習できて、とても印象的な体験になりました。今朝少し沼に入っただけでも足が筋肉痛になるほど、沼は重くて、すごく難しかったので、だから農業の方々には腕だけでなく足腰も強いのかなと思いました。

松本 琴葉（東京学芸大学附属高等学校1年女子）

山梨県小菅村にて源流体験のプログラムに参加した。浅いところから流れに逆らって進んでいき、徐々に深い場所に入って行った。最初のうちは足元の様子がよくわからず急な流れのなかを歩くのがとても怖く、友人の手を借りながら歩き進めた。歩いているうちにだんだんと慣れてきて、滑りにくい小さな石の上を渡るようにしたり、歩幅を狭くして安定するようにしたり、足場が悪いなかでうまく歩き進められるようにした。体験を通して得た経験をもとに自分で考えながら進めたのがとても面白かった。ずっと足元に注意しながら歩いていたので景色の変化などには気づきにくかったが、時々止まりながら見る周りの木々や岩などの景色が迫力があり、ここでしか見られない景色だと感じた。最後は滝に打たれたり、川の深いところに飛び込んだりした。周りの友人と一緒に挑戦する体験がとても楽しかった。

木村 夏月
（東京都立西高等学校
2年女子）





桜井尚武の 森のコラム

「ツルウメモドキ (*Celastrus orbiculatus*) 」



図1 ツルウメモドキ

20080503 原当麻（はらたいま）相模原



図2 ブナに巻き付いたツルウメモドキ

20090205 玉原（たんばら）水上群馬



図3 ツルウメモドキ果実近景

20221203 相模湖小原



図4 ツルウメモドキ果実遠景

20221203 相模湖小原

ニシキギ科の落葉藤本。葉は広楕円形で鋸歯があり大きさは5～10cm、互生します。雌雄異株です。雄花には退化した雌蕊（めしべ）があり雌花には退化した雄蕊（おしべ）があります。5～6月に葉腋から淡緑色の5弁の花を開きます（図1）。蔓は強靱で太く成長ししばしば寄主に巻き付いて寄主の通導組織を圧迫し、寄主である樹木の組織を損ない材質を痛めるため、林業上は有害植生とされます（図2）。果実は年末の12月ごろに紅く熟し、美しい果実が鈴なりになって実ります（図3、4）。

低山の丘陵地から奥山の山地帯までの山腹から広い尾根状地に普通に生育し比較的土壌の深い所が適地です。北海道から沖縄、朝鮮半島、中国、南千島に渡る広い範囲に分布しています。色々な変種があり、葉裏の葉脈上に突起のあるのをイヌツルウメモドキ（オニツルウメモドキ、var. strigillosus）と呼んで北海道、本州、朝鮮半島にみられるそうです。

紅い果実は太い蔓から出る枝状の細い蔓に実ります。切り取ったり加工したりするのが容易なので生け花や色々な飾物に使われます。クリスマスや正月の輪飾りのリースに使われるのがよくみられます。

アイヌの民俗などに、この蔓の内皮から繊維を取り出して下着や着物、紐、縄などに活用していたが麻が出回るにつれて廃れたというのがありました。

装飾利用や緑化材料として北米に導入されたものがクズ同様に繁殖しすぎて各地に広がり問題植生とされているという記事がありました。

資源植物として重要であった時期が終わると（麻や綿などの新作物が出回ると）迷惑植物として駆除の対象になるということがこの種でも窺われます。人の都合に便利なものでなくなっ

ても、この果実は野生鳥獣の貴重な餌資源であり生態系レベルでは大事な植生と見なされます。

鳥類やリス・ネズミなどの小動物ばかりでなく、ニホンザルの冬の食物として重要という観察報告もありました。近年大きな問題になっているクマ類も貴重な食物として利用しているのではないかと思います。林業上問題植物として手あたり次第切って歩くのが林業技術者にとってでは良しとされてきたのですが、野生生物と共生するためには、彼らが生存できる（であろうと想定される）生育面積を確保するだけでなく、このような（冬の）食物源をそこに住む生物が生きていけるだけの量を確保保全することが大事になっていると昨今の様子を見て強く感じます。狭めてしまった野生生物の生存域で彼らが必要な食べ物（資源）の確保行動を実行をしていくのが重要なのだと改めて思います。

桜井 尚武（本会、会員）

【活動報告】 小原の郷体験プログラム、沢体験2025実施しました

8月21日に小原宿活性化会議の小原宿拠点活用検討分科会と市とで開催しております小原の郷体験プログラムの沢体験を実施しました。今年度は本会は2回の企画を依頼されておりまして、その1回目となります。沢体験自体は、体験学校で使用している底沢ですが、今回は小学校低学年を中心とした親子21人でしたので少し、負荷を小さくする形での実施を検討しました。

スタート地点の砂防ダムはまだ飛び込めず、体験対象年齢とも違うので今回はパスし、スタート後、まずはいつもの滝を目指しました。こちらは天然の滝で、3～4mはありますが、緩やかに登れるため、この年齢層でもほぼ全員が登り切ることができました。その後、昼食、午後にさらに上流、というのがいつもの流れですが、小さい子が多いので、今年何度か試している、昼食地点真下の人工の滝を目指しました。こちらは普段、午前のゴールとしている滝が林道すぐまで登っているので午前を終わるのには便利ですが、時間調整も兼ねてそのまま体験できる場所として検討しました。結果、滝行のような体験が気軽にできるので多くの親子が全身ずぶ濡れになって楽しむことができました。昼食後は解散まで、昼食ポイントの緩やかな流れでゆっくり過ごし、相模原でもこんな涼しい沢があることを体験してもらえました。

宮村 連理（本会、副理事長）



サワガニの子どもがたくさん観察され、海のカニのように「幼生」段階がないことを学びました。ちょっとびっくりでした。



NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

